

# 菅総理 ありがとう



朝日新聞HPより

菅総理、開門の英断、ありがとう。そして、ここまで導いていただいた国会議員の皆さん、後押ししてくれた全国の市民の皆さん、環境保護団体の皆さん、皆さんの思いが結実しました。諍いの海だった諫早湾・有明海が、これからは結いの海に戻ります。再生の海への歩みを始めました。

干拓地の営農者の皆さん、後背地の皆さん、諫早市民の皆さん、安心してください。

これで、環境基準を満たしていない青酸カリの50倍の急性毒性が入った調整池の水を農業用水として利用しなくて済みます。農業

用水は環境基準を満たした清浄な水が必ず確保できます。また、潮受堤防締め切り以降、発生回数が3倍に激増した湛水被害も減少することでしょう。さらに、研究者の方々が精緻に研究した順応的管理の手法を取り入れた柔軟な開門方法によって、これまでのような大雨時の洪水や大量排水による漁業被害も防ぐことができます。

これまで正確な情報が与えられて来られなかった皆さんにはまだ不安かもしれません。しかし、今回の開門は、ひとり漁業だけが良ければという開門ではありませぬ。諫早の地域で持続可能に農業を行っていくためにも必ず必要な開門です。開門によって農業と漁業は手を携えて永続的に発展していくことができます。

また、諫早湾の再生は、かつて人類が経験したことのない程の貴い事業です。これこそ真の公共事業です。この諫早湾の再生は、今後の人類の進むべき道を示すものとして歴史に名を残し、後世、高く評価されることでしょう。

かつて破壊した自然環境を再生し、そして、環境保全と人間の経済活動とが調和する未来の都市の在り方として、全世界の注目を集めるでしょう。有明海の漁業者、

農業者、後背地の皆さんは、その主人公として、必ずや歴史に名を記すことになることでしょう。

漁業者の皆さん。工事着工から約20年、潮受け堤防締め切りから13年、裁判提訴から8年が経過しました。その間、多くの仲間たちが廃業し、自ら死を選んでいきました。残された漁業者も、先の見えない真つ暗闇の中を歯を食いしばって耐えてきました。

今、ようやく一筋の光明が見えてきました。辛い思いも必ず明るい未来が待っていると思えばこそ耐えることはできます。もうしばらくの辛抱です。宝の海「有明海」は、必ず帰ってきます。

漁業者や、支援者、裁判を担当した弁護士、何度も現地に足を運び漁業者と一緒に涙を流してくれた国会議員の皆さん、そして、そ



れを支えてくれた家族の皆さん。有明訴訟原告団、弁護団から、心より感謝申し上げます。

繰り返しになりますが、営農者の皆さん、どうか心配なさらなくてください。私たちは、あなた方の生活を破壊しようとは思っていません。持続的に諫早の地で農業を続けるためにはどうすればいいのか、私たちには具体的なプランがありません。

どうか、同じテーブルについて、みんなが幸せになるための方法を一緒に考えようではありませんか。

もう、諫早は諍いの海ではありません。宝の海、有明海が戻ってきます。

「よみがえれ！有明」この思いは農業も漁業も大事、海も山も大事という私たちの願いです。

